

# 岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成22年12月28日現在

## 今月の重点活動

### 今年の普及活動・営農指導の成果を発表！！

12月7日、管内の農業者とともに課題解決を行っている普及活動の成果検討会を岐阜市内で開催し、発表課題に関係する農業者及び関係機関等110名の参加を得て盛大に開催することができた。今年度からJAぎふ営農指導員の調査研究活動も併せて発表を試み、出向く営農指導を印象付けることができた。

また、講演会では、流通業界（仲卸）からの農業参入事例を代表取締役から講演され、担い手不足解消に一石を投じた内容で、出席者は熱心に耳を傾けていた。

発表課題  
『鉄コーティング種子による湛水直播き栽培の取り組み』（水田）  
『GAPの推進による安全・安心な農産物生産』（野菜）  
『柿の新品種導入による産地の活性化』（果樹）  
『梨における反射シートの効果実証』（JAぎふ）



成果検討会の様子

## 主要農作物の生産振興

### ■ふるさとのじまん農産物づくり（アスパラガス）

#### アスパラガス栽培管理研修会開催（羽島市）

12月7日にJAぎふ羽島アスパラガス部会の冬季栽培管理研修会を開催し、新規生産者7名が参加。普及指導員から茎葉刈り取り方法と管理、特に来春の春芽のための土作りについて指導を行い、質問の多い熱心な研修となった。



アスパラ導入が決定

### ■麦 播種終了、生育順調

11月上旬から開始された播種は順調に進み、本巣地域のタマイズミ・岐阜市、山口市、本巣市で栽培されている大麦（ミノリムギ）も播種が終了した。播種後の降雨も少なく出芽は良好で、その後の生育も順調に進んでいる。

タマイズミ(12/24撮影:北町)



### ■大豆 大豆の収穫始まる

12月に入ってから、本巣地域、岐阜市、山口市の各営農組織において大豆の収穫が始まった。全般的には適期の収穫になったものと思われる。品質はまずまずで、収量は平年並以上が見込まれる。



### ■いちご いちご本格出荷

大豆コンパインでの収穫

夏期の猛暑で花芽が遅れ、収穫も1週間から10日ほど遅れていたが、12月中旬に入り、徐々に出荷量が増えてきた。今年は、低温期に入ってから本格出荷もあり、比較的大玉で味も良く、今シーズンの作柄・価格に期待をしている。



最終講座  
(パック詰  
作業)

### JAぎふいちご塾閉講

今年度の8回シリーズで行われた、JAぎふいちご塾が12月11日を最後に閉講した。今年度の受講生は、本格的にいちご栽培をやりたいという人が多く、皆さん積極的に受講された。今後の進路は、いちご研修施設に入る人や一先ず露地からチャレンジなど様々である。

### 県内初のいちごパッキングセンターが試験的稼働

いちごの労働時間軽減と商品アイテム開発のため、JAぎふが県の委託を受けパッキングセンターを12月17日から試験的に稼働した。今年は試験的稼働のため、新規就農者6名の収穫物の一部を集めパートを8名雇用し常時6名で今後は行っていく予定である。今年は本格導入に向け検証を行うこととしており、農業普及課は、試験稼働に向けた運営方法等について支援を行っている。



PC稼働打合せ

### ■にんじん 春夏にんじんの播種始まる

12月9日ににんじん部会役員会が開催され、平成23年産春夏にんじん生産計画が

検討された。農業普及課から高品質・出荷量を確保するための計画播種や前年作の課題解決事項の確認を行った。播種は12月15日から始まっている。

## ■だいこん

### 祝だいこん、年末出荷大忙し

関西地方の正月の縁起を担いだ雑煮の食材として利用される「祝だいこん」が、岐阜市の大根農家を中心に12月21日～28日の1週間で約66万本（約4.5ha）が出荷され、忙しい毎日となった。農業普及課では、生育調査に基づく出荷予測支援を行っており、市場の信用が年々高くなり、注文量も増加している。



祝だいこん出荷調整

## ■柿 袋掛け富有柿・果宝柿出荷

「袋掛け富有」の出荷が糸貫柿選果場で12月9日～17日の期間に行われた。出荷は前年の約70%にとどまった。

その出荷された柿から大玉・高糖度・高品位の「果宝柿」が選果され、岐阜柿のトップブランドとして販売されているが、今年度は糸貫では91個（前年は144個）という結果となり、名古屋中心に販売された。農業普及課では、基準に基づく選別指導を行った。



果宝柿選別作業

### ぎふクリーン農業更新に向けて、間伐徹底を強く指導！

瑞穂市柿振興会では、ぎふクリーン農業の更新年度にあたり、全生産者に対してあらためて「ぎふクリーン農業」制度について説明を行い、取り組みの必要性の理解を図った。また、同振興会における間伐の進捗率が低いため、高品質果実の生産のために重要な取り組みであることの理解を求め、その推進徹底を行った。

### 来年に向け各地でせん定講習会を開催

出荷終了に伴い、次年度に向けてのせん定講習会が各振興会単位で開催されている。また、各振興会が新たな担い手として期待している初心者や定年帰農者、婦人部等に対しても研修会を実施し、せん定の基礎を学習し、産地の基礎レベルの向上に努めている。

## 担い手の育成・確保

### 管内から2名「飛騨・美濃特産名人」に認定

12月15日、県庁において「飛騨・美濃特産名人」の認定証授与式が行われ、管内の枝豆、柿の生産者が新たに認定された。知事から直接「認定証」を授与された。両名は、各振興会役員の方の立場にあり、今後も産地振興への貢献に期待したい。



授与式後の知事との2ショット

## ■企業参入

### 平成22年度の取り組み経過と次年度の計画検討

今年度から農業参入した建設コンサルタント会社（岐阜市）は、今年産の生産が終了したことで12月22日に反省会と次年度計画の検討が行われた。今年度は、加工トマト、なす、トウモロコシ、ブロッコリー等に取り組み反省点も多かったが、次年度に向けた前向きな作付計画検討が行われた。農業普及課からは作付計画等経営改善の提案書を示し、検討材料とした。次年度に向け引き続き計画と実践に向けた支援を行う。

## ■農村女性起業化組織 柿りん・柿の一次加工開始

柿の収穫も終わり、瑞穂市柿振興会女性部「柿りん」では、12月9日～15日まで柿ジャムの一次加工を行った。今年度は猛暑の影響から心配されていた原材料の確保も柿振興会・「柿りん」会員の協力により目標量を確保した。年々加工数量や加工アイテム数が増加し、日々の成長している。農業普及課としても重点的に支援していく。



一次加工に励む会員

## 地域の動き等

### ■JAぎふ 岐阜地域「水田農業担い手協議会」会長会議開催される

12月13日、JAぎふ本店において岐阜地域「水田農業担い手協議会」会長会議が開催された。JA、各地域協議会長、農林事務所等16人が出席し、岐阜地域一本での担い手協議会設立に向け、地域における水田農業の現状について意見交換が行われた。

農業普及課では、当協議会の活動を通じて水田農業の担い手育成や新規品目導入（新規需要米、園芸品目等）の推進を計画している。